

北海道教育大学における倫理・人権教育の在り方等に関する
有識者会議（第1回）議事要旨

1. 日時

平成21年9月7日（金）14時00分～15時40分

2. 場所

KKRホテル札幌 2階 はまなす

3. 出席者

○委員

祖母井委員、押谷委員、小野寺委員、西村委員、日浅委員、山田委員

○オブザーバー

北海道警察本部平澤生活安全企画課長

○北海道教育大学

本間学長、大久保理事、後藤理事、八重樫副学長、前田事務局長、齊藤総務部長、
小泉学務部長 他

4. 議事

- (1) 本間学長から開催にあたり挨拶が行われた。
- (2) 大久保理事から委員、オブザーバー、事務局出席者の紹介が行われた。
- (3) 座長の選出を行い、山田委員を座長に決定した。
- (4) 事務局から会議の進め方等について説明がなされた。
- (5) 事務局より配布資料の説明がなされた。
- (6) 自由討議
- (7) 閉会

【自由討議における各委員の発言要旨】

【委員】

人権といっても、相対立する人権があると思うので、いかに適正に結論を出していくかということと、それを、事前にどのように学生や教員に周知していくか。この2点の具体論を考えていかなければならないと思っている。

【委員】

事案として、学生間で生じる場合、学生と教職員間で生じる場合、教職員間で生じる場合もあるかと思うが、対象毎に対応の仕方も異なる部分が出てくると思う。

学生便覧の中に、学生に対していろいろ留意事項等が書かれていると思うが、そうい

ったものも充実していかなければならないと思う。

【委員】

学校教育がうまくいくかどうかは、教える先生の成否にかかっている。

学生段階で、しっかりとした倫理観や規範意識がきちとなければ教師になっていくのが大変だ。

こうしたことの背景として、「公」の部分と「私」の部分がごっちゃになって、「公」の部分では「そういうことをしては駄目だ」が分かるが、「私」の部分では、そうならないことが考えられるのではないか。

例えば、処分事例として、信用失墜行為とか、やってはいけないことをやるケースがあるが、そうならない工夫、取り組みが必要だと思う。

併せて、それが人権にかかわる部分であったり、子供への指導に跳ね返ってくる要素が含まれていると思う。

【委員】

札幌校の事例は、集団になって怖さを忘れる意識が働いたのか、そのとき誰か止める学生がいなかったのかという問題点があったと思う。

旭川校の事例は、一人でやったことで、こういう学生に対する指導と、集団の中に入ってしまうと怖さを忘れる学生の対処の仕方が違うという感じを持った。

職員の不祥事は、こういう事例が何故起きるのか、何故未然に防げなかったのか、特に旭川校のアカデミックハラスメントは、もう少し早い段階で防げたのではないか、という思いがしている。皆で監視する目というか、何かうまく機能できなかったのか、という気がしている。

【委員】

何が犯罪なのか、一定の年齢に達した人間なら当然分かっているから、それが分かっているから、事件が後を絶たないのだと思う。「こういうことは犯罪なのだ」とあらゆる機会に口を酸っぱくして言い続けるしかないのでしょうか。大学生や教員による犯罪や大学キャンパス内でおきた事件について、自校でのできごとではなく他校での例についてもつまびらかにし、情報として知らせるべきでしょう。新聞やテレビは毎日、さまざまな犯罪を報道している。そうした報道を通じて、私たちは、何が犯罪で、何をしてはいけないのか、罪を犯したらどうなるのかを学習している。新聞などを通じて、ニュースに敏感になってほしいと思う。

【委員】

組織の構成員の責務は、お互いに牽制し合う、お互いに身を引き締めて事に当たると

ということだと思う。組織が大きくなればなるほどいろんな人がいて、いろんなことが起こってくるので、不断にお互いの関係を考えておかなければいけないと思う。

もう一つ、将来教員となる人たちが基本的な道德観を持っていないと大変困ることになる。そののところをどう教えたらいいのか、カリキュラムに書いて講義をやれば済むかという、けっしてそうではないと思う。

特に気にしているのは、「3歳児教育の重要性」とよく言われるように、子供の頃の教育の仕方、つまり、親の責任のことも考えないと少しも良くなれないという気がしている。その親となる人たちを育てる先生達がきちっとしていないと、将来親になったときに子供に良い教育が出来ない。

そのことは、日本全体で考えなければならない、非常に大きな深い問題だと思っている。

粘り強く、不祥事件を絶つ努力をしなければならない。

現場の先生は大変と思うが、力を合わせて、積極的に犯罪が起こらないよう努力を続けてほしい。

心の環境というか、お互いの関係で醸し出される空気、それが安易に流れているのか、緊張した関係にあるか、そういうことで学内の雰囲気というのは随分変わってくると思うので、是非良い環境を作ってくださいよう、先生方、事務の方をお願いしたい。

そのセンスで、意見書に反映できればと考えている。

「人間はまだ進化の途上にある生物で100%完成されたものではない。いろんなことを覚えながら、更に先に進んでいかなければならない。」と感じている。